

(一社)日本原子力学会
「日本原子力学会和文論文誌」
投稿の手引

(2022年4月5日改定)

1. 投稿にあたって

- (1) 日本原子力学会和文論文誌（和文論文誌）へ投稿する者は、必ず「投稿ガイドライン」および本「投稿の手引」にしたがうこと。
- (2) Journal of Nuclear Science and Technology（英文論文誌）に投稿する者は、別途定める「Instructions for Authors」にしたがうこと。
- (3) 他の出版物の著作権に抵触する場合は、著作権使用の承諾書を投稿原稿に添付すること。

2. 原稿の形式

- (1) 原稿の第1ページ（タイトルページ）には投稿カテゴリ、日本語による表題、全著者名、英語による表題、全著者名、研究機関名、所在地、抄録（[コメント]と[訂正]には不要）、キーワード（[訂正]には不要）の順に記載する。脚注に英語による代表著者連絡先（E-mail アドレス）、および日本語の所属機関名を書く。第2ページから本文を始める。原稿には必ず通しページを付ける。
- (2) 研究機関名・所在地が著者の現在の所属機関・所在地と異なるときは、脚注に現在の所属機関・所在地を付記する。
- (3) 表題は簡単・明瞭で内容が十分判断できる表現を心掛ける。
- (4) 英文抄録は、目的・方法・結果について（必ず結果を含めること）強調したい要点を、英文200語以内に簡潔にまとめる。
- (5) キーワードは、内容を理解し、分類し、検索するうえでの「重要語」を英語で10語（句）程度選ぶこと。このとき少なくとも3語は標準キーワードリストから選ぶこと（別記「選定の手引」を参照）。
- (6) [総説]、[論文]では、緒言と結論の間に理論、実験、結果、考察などを理解しやすいように整理して書く。なお、緒言では、既往の研究との関連・背景・研究の動機・目的・意義および方法などを要領よく説明する。
- (7) [速報] その他の原稿は、上記(6)にとらわれず簡潔に書く。
- (8) MS-Word版テンプレートを利用すること。

3. 原稿の書き方

- (1) 文章は読者が読みやすく、わかりやすいよう、かつ簡潔に書く。英文は特に語学的にも表現に十分注意する。
- (2) 用語は常用漢字・現代かなづかいに準じ、文体は「である」調に統一する。専門用語はなるべく文部科学省学術用語、JIS用語を使用する。
- (3) 年号は原則として西暦で示し、必要があれば、2016（平成28）のように記す。
- (4) 原稿は、A4判用紙に40字×30行（約2枚で和文論文誌刷り上がり1頁に相当、約2,400字/頁）で作成する。
- (5) 見出しは、章の場合、I（ローマ数字）を使い、以下、1, 2, ...（節）、(1), (2), ...（項）、(a), (b), ...（目）、a, b, ...とする。
- (6) 脚注は右肩にa, b, c...のように書き、その頁の下欄に記載する。

- (7) 文献引用にあたっては、参照する順に右肩に半角数字で^{1), 2), 3-5)}とつけ、参考文献は本文の末尾にまとめて記載する。文献の著者名、論文名、掲載情報を明記すること。なお、連名著者が4名以上の場合は3名の著者名を記し、*et al.*として省略してもよい。著者名は、欧文表記の場合、I. Tanakaのようにfamily nameを後に書き、その他はイニシアルのみを記すのを原則とする。ページ数は巻ごとの通しページを書き、通しページでない場合には必ず号数を入れる。レポートを引用する場合、なるべく発行機関名も記入する。ISBN等の番号がある場合は発行年の前に記載する。インターネット上でアクセス可能な文献はURLやDOIを末尾に記載すること。
- (8) 英語以外の雑誌・単行本・レポートを引用する場合は、[in Japanese] [in Russian]などを付記する。日本語などラテン文字以外の文献は、英語訳[原語]の形式の表記を原則とするが、発行機関や著者による論文名や発行機関名などの公式の英語訳がある場合は、英語のみを用いる。公式の英語訳がない場合、[原語のローマ字表記]のみを用いることも認める。日本語のローマ字表記は、著者や自治体、機関自身などによる定まった表記法がある場合(例: Shimadzu Corporation[島津製作所])を除き、修正ヘボン式の表記を基本とする。
- (9) 原則として数量を表す記号はイタリック体、単位記号その他はローマン体、マトリクスやベクトルはボールドイタリック体とする。参考文献中、雑誌名・書名・レポート名・プロシーディング名はイタリック体、巻数はボールド体とする（下記記載例参照）。

※望ましい記載例

- 1) K. Shibata, O. Iwamoto, T. Nakagawa, N. Iwamoto, A. Ichihara, S. Kunieda, S. Chiba, K. Furukawa, N. Otuka, T. Ohsawa, T. Murata, H. Matsunobu, A. Zukeran, S. Kameda, J. Katakura, “JENDL-4.0: A New Library for Nuclear Science and Engineering,” *J. Nucl. Sci. Technol.* **48** (2011) pp. 1-30, <https://dx.doi.org/10.1080/18811248.2011.9711675>.
- 2) K. Ishii, A. Fushimi, T. Hino *et al.*, “Analysis of mixed oxide fuel critical experiments EPICURE and MISTRAL with nuclear analysis code for BWR,” *Trans. At. Energy Soc. Jpn.*, **5**[1], 34-44 (2006), [in Japanese], <https://doi.org/10.3327/taesj2002.5.34>.
- 3) S. Uchida, K. Tagami, N. Ishii, “Characteristics of radionuclide behavior in the soil environment,” *J. At. Energy Soc. Jpn.* **53** (2011), pp. 623-627. [in Japanese], <http://www.aesj.net/permalink/atomos201109/> (cited 2018 March 14).
- 4) K. Yokoyama, A. Yamamoto, “Cross-section adjustment methods based on minimum variance unbiased estimation,” *J. Nucl. Sci. Technol.* <https://doi.org/10.1080/00223131.2016.1146637>

単行本：著者名、書名、(編者)、出版者、出版地、ページ、ISBN等番号(番号がある場合)、発行年の順

- 5) W. M. Stacey, *Nuclear Reactor Physics*, John Wiley & Sons, New York, 437-448, ISBN 0471391271 (2001).
- 6) K. Kobayashi, *Reactor Physics*[原子炉物理], Corona Publishing Co., Ltd., Tokyo, 557-627,

ISBN 978-4-339-06583-1 (1995), [in Japanese].

または

- 7) K. Kobayashi, [*Genshirobutsurei*], Corona Publishing Co., Ltd. Tokyo, 557-627, ISBN 978-4-339-06583-1 (1995), [in Japanese].

レポート：著者名，レポート名，レポート番号，発行機関，発行年の順

- 8) K. Okumura and Y. Nagaya, *Production of neutron cross section library based on JENDL-4.0 to continuous-energy Monte Carlo code MVP and Its application to criticality analysis of benchmark problems in the ICSBEP handbook*, JAEA-Data/Code 2011-010, Japan Atomic Energy Agency, (2011), [in Japanese], <http://dx.doi.org/10.11484/jaea-data-code-2011-010>.

プロシーディング：著者名，“論文名，” プロシーディング名，開催地，開催年月日，巻数，ページ，ISBN 等番号（番号がある場合），発行年，[媒体表示]（冊子体ではない場合）の順

- 9) K. Hesketh, M. Delpech, E. Sartori, “Multiple Recycling of Plutonium in PWR – A Physics Code Benchmark Study by the OECD/NEA,” *Proc. Global 1997*, Yokohama, Japan, Oct. 5–7, 1997, Vol.1, p.287 (1997).
- 10) K. Nakajima, H. Unesaki, “On the Analysis Method of Effective Delayed Neutron Fraction at Thermal Neutron Systems,” *Proc. PHYSOR-2006*, Sep. 10-14, 2006, Vancouver, Canada, ISBN 0-89448-697-7 (2006) [CD-ROM].

インターネット：著者名，“ウェブページの題名”，ウェブサイトの名称，更新日付，[言語の表示]（英語以外の場合），[媒体表示]，URL，（アクセスした日付）

- 11) Japan Atomic Energy Agency, “JENDL-4.0u”, Japan Atomic Energy Agency, 2015 Jan 27, [Internet], <http://www.ndc.jaea.go.jp/jendl/j40/update/>, (cited 2015 July 24).

4. 図・表

- (1) 論文中に含める図・表は厳選すること。
- (2) 必ずしも論文中に含める必要はないが，本文の内容を補完する図・表・データ等がある場合は，オンライン公開することができる。以下の5.章を参照のうえ，本文を補完するデータを電子付録（Supplemental Online Material）として投稿すること。
- (3) 論文中に含める図（写真を含む）はまとめて，本文の後に図のタイトル一覧（キャプションリスト）とともに付ける。1ページに1図ずつ，見やすい大ききで作成する。ただし，横寸法（片段8 cm，両段17cm）に縮小されたときに，すべての文字が判別できることを確認すること。図は TIFF, EPS (Photoshop, Illustrator), PDF, JPEG, PowerPoint または PICT 等で作成するのが望ましい（300dpi以上）。カラーで作成された図表はそのままカラー図表としてオンライン掲載されるので，判別しやすい色使いに留意する。
- (4) グラフは縦軸，横軸で囲み，それぞれ目盛りを入れる。
- (5) 図・表は，本文に組み込まず別紙に作成し，その挿入位置を本文中に指定する。図には Fig. 1, Fig. 2..., 表には Table 1, Table 2... のように番号をつける。
- (6) 図・表のタイトルおよび図・表中の説明は，原則として英文で書く。

5. 電子付録（Supplemental Online Material）

- (1) 論文公開プラットフォームに論文本文の付録としてPDF形式で公開する図・表・データ等を指す。
- (2) 電子付録として公開する図・表・データの著作権は，著者に帰属する。
- (3) 論文内容を補助するものに限る。
- (4) 論文審査後の電子付録の追加は認められない。
- (5) 内容は，審査時に編集委員会が確認をおこなう。
- (6) 内容は，すべて著者が責任を負う。
- (7) 図・表は，Figure S1, Table S1 といったように，冒頭にSをつけ，番号は論文本文から引き継がずに，あらたに1から振りなおすこと（例：本文中，図がFigure 4で終わっていても，電子付録中ではFigure S5とはせず，Figure S1とする）。
- (8) 論文本文中で言及する場合は，Supplemental Online Materialであることを付記したうえで，引用すること（例：Figure S1 in Supplemental Online Materialなど）。
- (9) 電子付録を投稿する際は，1ページ目の左肩に”電子付録：Supplemental Online Material”と記載し，タイトル・全著者名を日本語と英語で記載する（下記例参照）。

※1 ページ目例

電子付録：Supplemental Online Material

日本語 論文タイトル
日本語 全著者名
英語 論文タイトル
英語 全著者名

所属

Corresponding author連絡先

- (10) 2ページ目以降は自由に記載する。
- (11) フッターにページ番号を振る。
- (12) 投稿時は，本文のPDF（Reference，図・表含む）のあとに，電子付録のファイルを添付して，ひとつのPDFとして投稿すること。
- (13) 通過後，最終的にデータを事務局に送付する際には，電子付録は本文とは切り離し，PDF形式で提出すること。
- (14) 論文公開時は，論文本文の文末に，“Supplemental online information is available on J-STAGE.”と記載される。

6. 記載上の注意と記号

- (1) 数式には，(1), (2)...の通し番号を右詰めにつける。
- (2) 量記号および単位記号はJIS Z 8203*指定のものを使用する。単位はSI単位を使用する。
- (3) 質量数は左肩，放射能記号*は右肩につける。
- (4) 慣用の略語や化学記号は使ってもよいが，タイトルおよび英文抄録には極力使用しない。
(例) BWR, PWR, FBR, NaOH, H₂O, UO₂
一般的でない略語を使用する場合は，最初に説明をつける。
(例) Delayed Neutron Detector (DND)

7. 原稿を書き終わったら

- (1) タイトルページ，本文，キャプションリスト，表，図を1つのPDFファイルにまとめる。
- (2) 論文投稿システム https://www.aesj.net/publish/jnst_jp/post_jp にアクセスし，その指示にしたがって投稿する。

8.その他

本手引は2022年4月5日から適用する。

*“国際単位系(SI)及びその使い方JIS Z 8203”（日本規格協会発行）を参照。

「キーワード」選定の手引

1. 「キーワード」とは、あなたが自分の論文で「何を」記述したのか、その「何を」表すための代表的な**単語**、**複合語**あるいは**フレーズ**です。
2. 総説、速報、論文、技術資料は、表題・英文抄録・本文の中またはホームページ掲載の標準キーワードリストから、「重要語」を**重複しないように10語程度**選定して英文アブストラクトの下に記載してください。
3. 「重要語」に相当する語句が複合語あるいはフレーズの場合には、下記のように、その複合語あるいはフレーズを1語と考えてください。
(例1) Fast Neutron Scattering
(例2) Cross Section